

大阪湾漁場環境速報

平成27年4月7日発行
兵庫のり研究所

3月中下旬以降に大量発生していたスケルトネマを主体とした小型珪藻は、湾奥部の一部海域を除き全般にその発生量は大幅に減少していました。窒素は概ね3 μg-at/L以上の値まで回復していますが、塩分の低い海域ではリンの値が低い状況にあります。

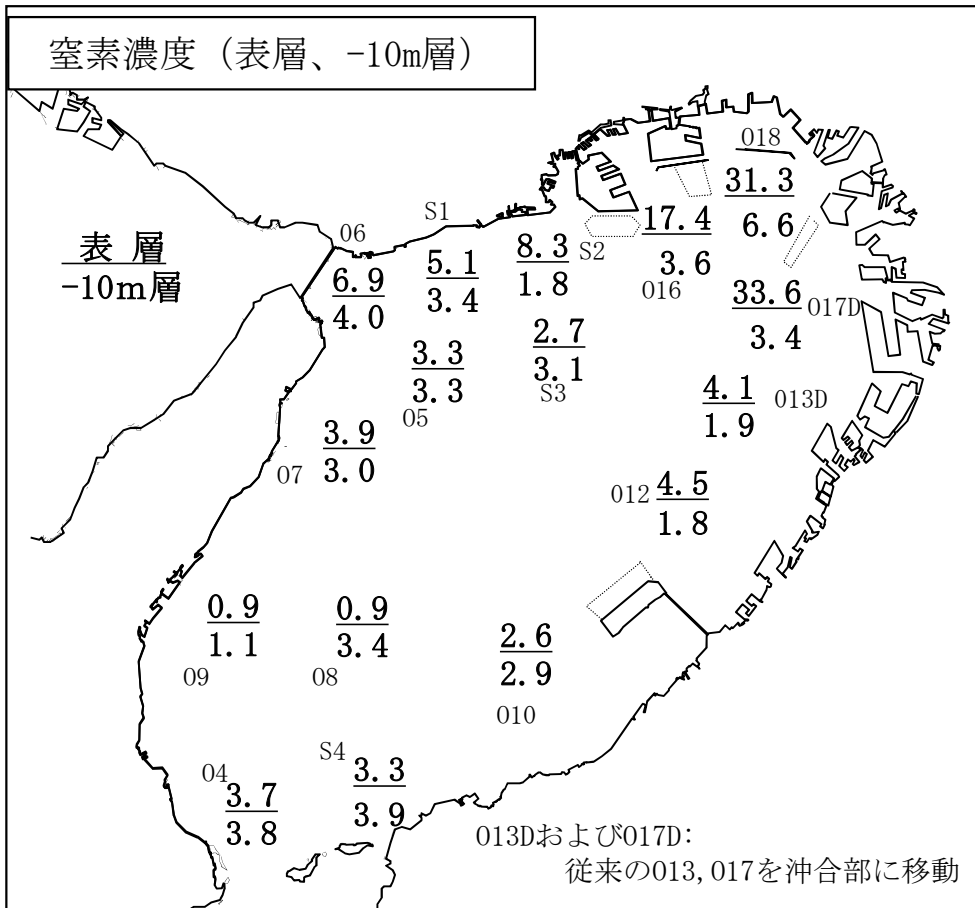
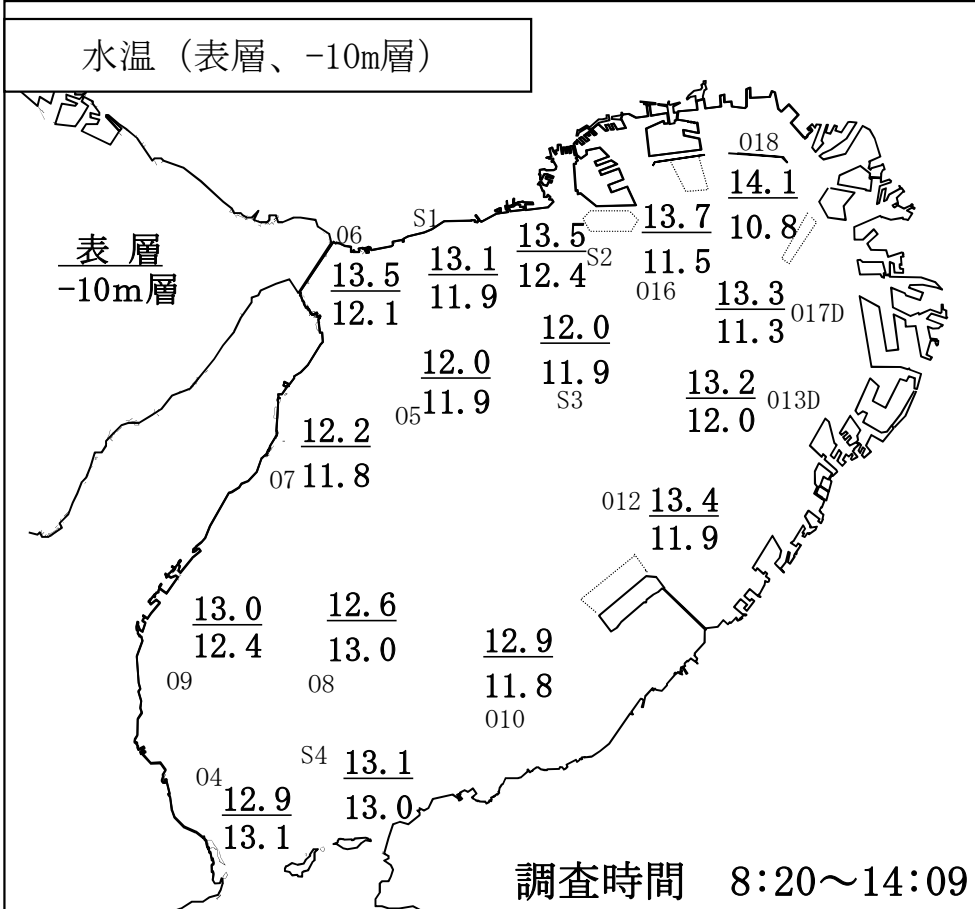
(水温) 表層は湾内12~14℃台で、平均12.9℃。平年、昨年比約1.3℃高い。-10m層は平均12.2℃(平年比+1.0℃)。

(塩分) 表層平均30.36psu(平年 31.15)。-10m層平均31.83psu(平年 32.07)。

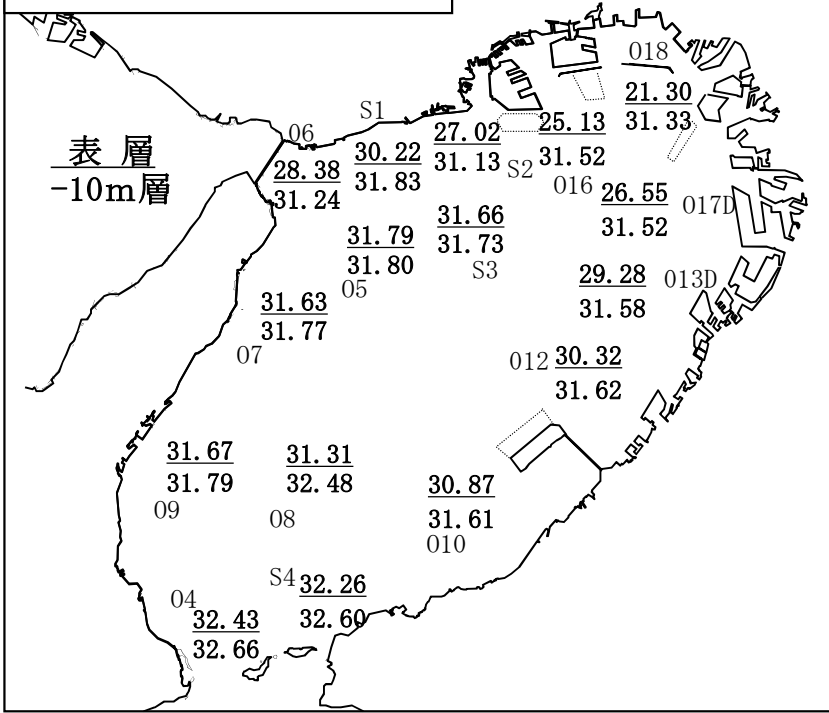
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均4.9 μg-at/L、リンは平均0.15 μg-at/L。窒素は平年(3.4)より高く、リンは平年(0.19)よりやや低い。-10m層(平均)は、窒素3.0 μg-at/L、リン0.22 μg-at/L。和田岬~湾奥、大阪南港沖にかけて小型珪藻の発生量が多く、これら海域では海水がやや褐変(弱い赤潮)していた。湾奥部を除いた表層塩分が低い(概ね30psu台以下)海域では、リンが著しく少ない状況。淡路東浦の志筑沖では、表層・-10m層ともに栄養塩(窒素・リン)が非常に少なかったが、珪藻は確認されなかった。岸和田以南から淡路東浦沖合及び明石海峡部にかけて透明度が高く(8.5~16.0m)、友ヶ島周辺~湾中央南の-10m層域で塩分濃度の高い海水が見られた。4/3の南風による海水の攪拌や、降雨(気象庁 アメダス観測値より 神戸4/3~4/6:計31.5mm)により環境の好転がもたらされたと考えられる。

上段 (今回値)	平成27年4月6日調査
中段 (昨年値)	平成26年4月7日調査
下段 (平年値)	4月上旬

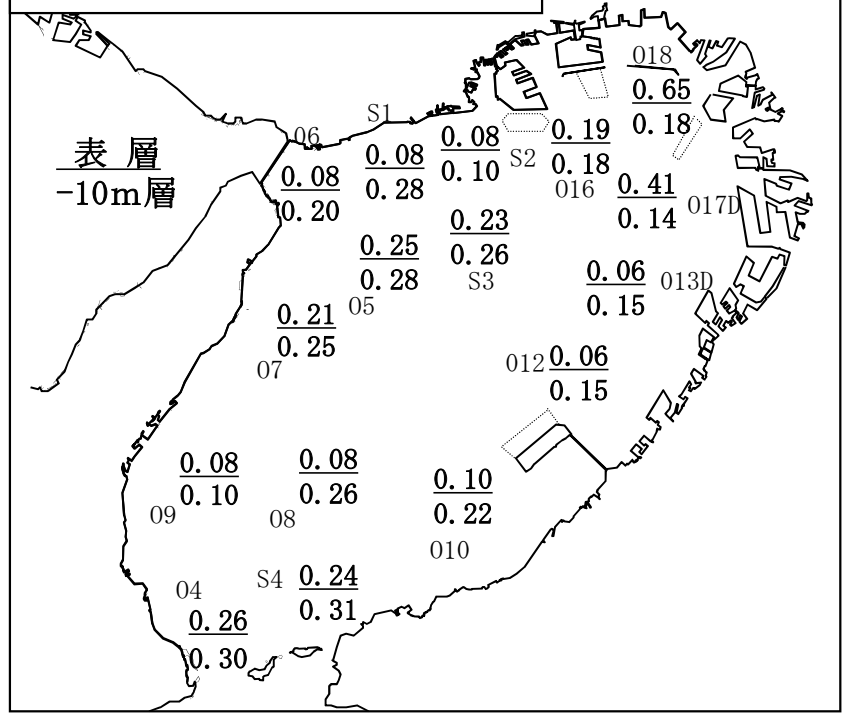
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 (μg-at/L)	燐酸 (μg-at/L)
04	12.9	32.43	3.7	0.26
	12.3	32.15	0.8	0.13
	12.5	32.66	3.4	0.30
05	12.0	31.79	3.3	0.25
	11.5	32.02	2.1	0.24
06	13.5	28.38	6.9	0.08
	11.3	32.03	2.2	0.24
07	12.2	31.63	3.9	0.21
	11.7	31.80	0.6	0.14
08	12.6	31.31	0.9	0.08
	12.1	31.72	0.4	0.12
09	13.0	31.67	0.9	0.08
	12.1	31.98	5.7	0.37
010	12.9	30.87	2.6	0.10
	11.6	30.81	0.3	0.06
012	13.4	30.32	4.5	0.06
	11.4	28.83	0.4	0.09
013D	13.2	29.28	4.1	0.06
	11.2	26.98	3.8	0.10
016	13.7	25.13	17.4	0.19
	11.8	28.30	0.3	0.09
017D	13.3	26.55	33.6	0.41
	11.5	28.07	1.7	0.10
018	14.1	21.30	31.3	0.65
	11.6	17.16	40.3	0.39
S1	13.1	30.22	5.1	0.08
	11.2	31.98	2.4	0.24
S2	13.5	27.02	8.3	0.08
	10.7	29.26	0.5	0.09
S3	12.0	31.66	2.7	0.23
	11.2	31.59	0.9	0.12
S4	13.1	32.26	3.3	0.24
	12.0	31.98	0.7	0.12
	12.2	32.24	1.9	0.18



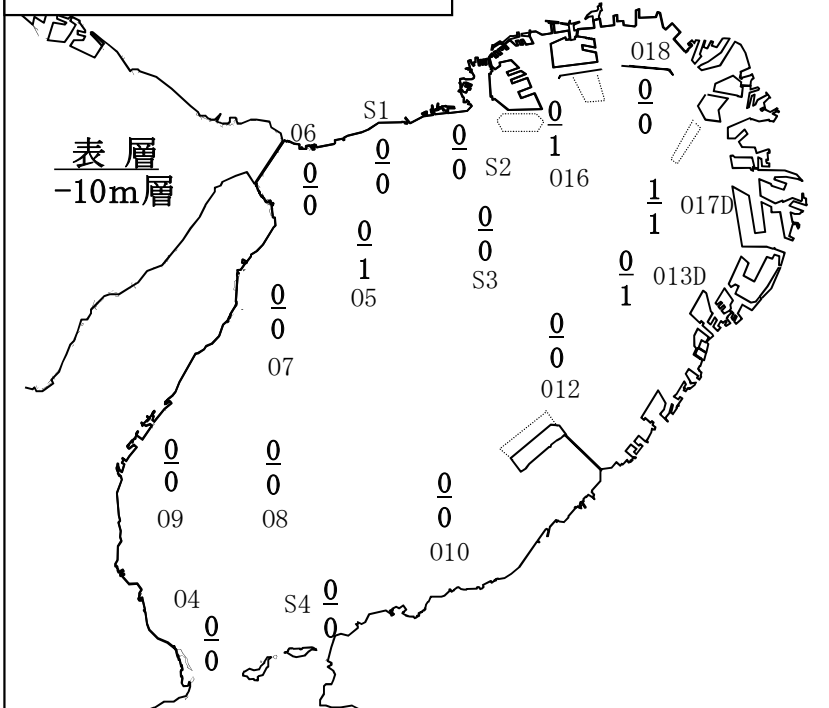
塩分 (表層、-10m層)



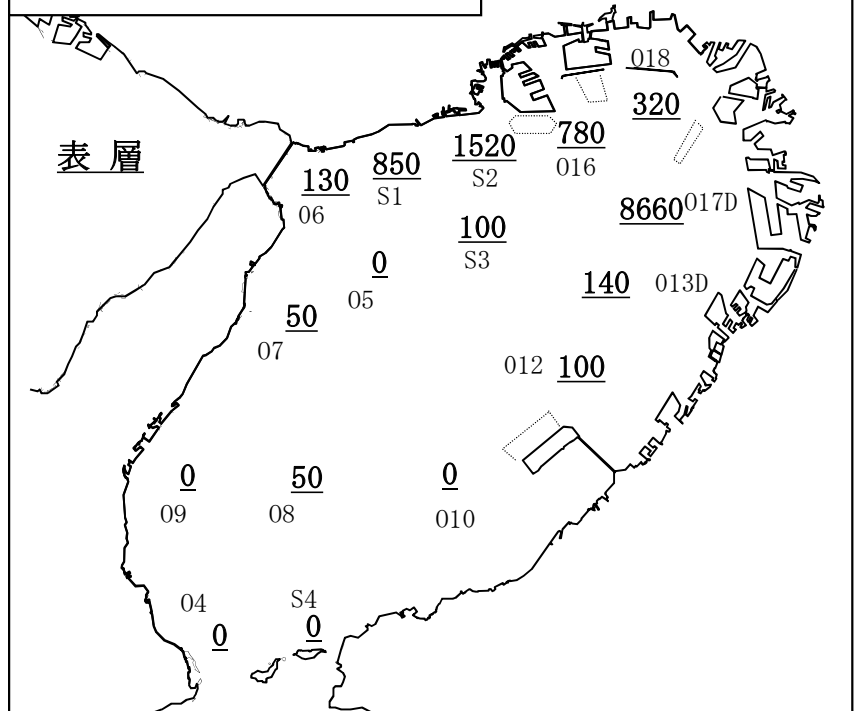
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

